

2025年（令和七年） 9月5日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週(8月28日～9月3日)の国際石油市場は、ロシア・ウクライナの戦闘激化に伴う供給不安、米国の対露経済制裁強化の動き、あるいは、9月7日予定のOPRCプラス有志会合の増産方針をめぐる観測、米国のドライブシーズン終了、硬軟織り交ぜた経済指標等を要素に展開した。

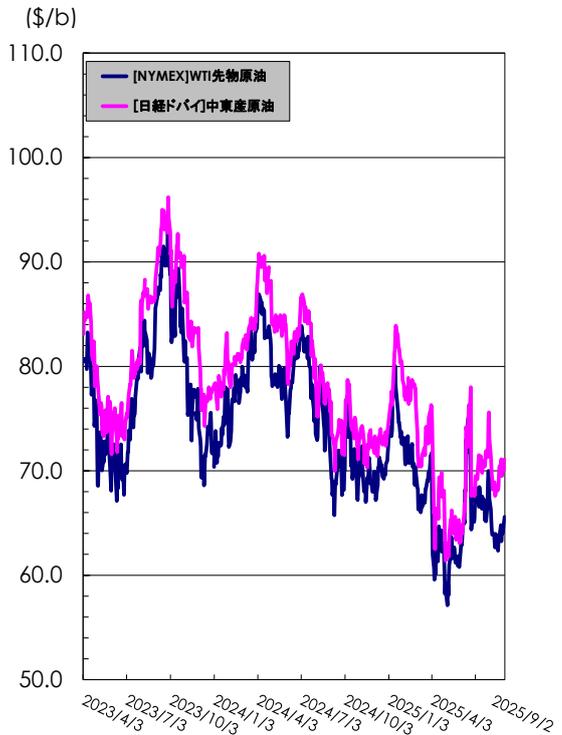
NYのWTI原油先物市場は、8月28日、続伸の64.60ドルで始まり、29日は反落、三連休明け2日反発し65.59ドルまで上昇、3日は反落の63.97ドルと、60ドル台半ばの水準で反発・反落を繰り返し、推移した。

また、中東産パイ原油/東京市場(10月渡し)も、前週(8月21日～27日)は69.50～71.10ドルの範囲で推移したが、当週は、8月28日70.20ドル、29日70.90ドル、9月1日70.10ドル、2日71.10ドル、3日71.40ドルだった。

対ドル為替レート(TTM)は前週(8月21日～27日)147.16～148.53円の範囲で推移したが、当週は、8月28日147.42円、29日146.92円、1日147.28円、2日147.34円、3日148.79円だった。

そのような中で、9月1日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円安、軽油も同0.1円安、灯油は同2円安(18リットルベース)だった。ガソリンの全国平均価格は174.1円だった。9月4日～10日の燃料油補助金の支給額は、「予防的な激変緩和措置」が廃止されたため、定額分のみ、ガソリン・軽油の場合10.0円で前週比0.5円減額、灯油・重油の場合も5.0円と同0.2円減額となった。

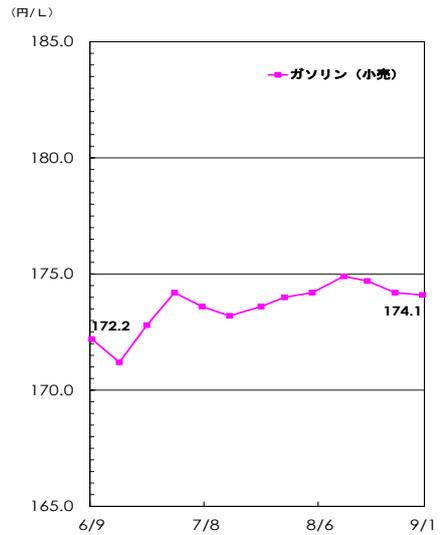
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/24～8/30	2,694 ▲58	▲-
	トッパー稼働率 (%)	"	77.8 ▲1.7	▲-
	原油在庫量 (千kl)	8/30	10,712 ▼-612	▼-
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	9/1	70.10 ▼-0.50	▼-5.5
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/2	65.59 ▲0.79	▼-4.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	72.14 ▲0.24	▼-15.90
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	66,864 ▲405	▼-21,573
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	147.35 ▼-0.40	▲12.35
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/1	148.28 ▲0.17	▼-1.04



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	8/30	1,681	▲ 129	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/26 ~ 9/1	81.0	▶ 0.0	▶ 0.0
価格		(TOCOM/中部) 9/1	81.0	▶ 0.0	▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/1	174.1	▼ -0.1	▼ -0.3

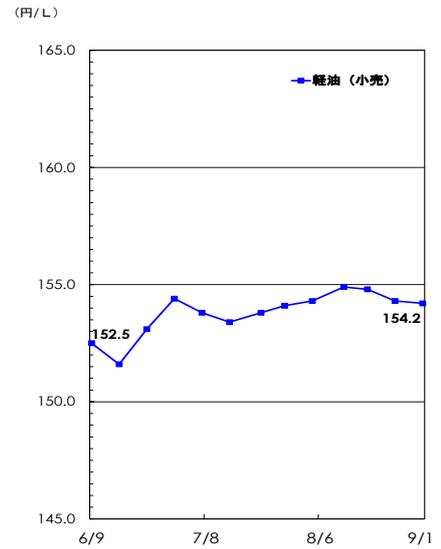
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

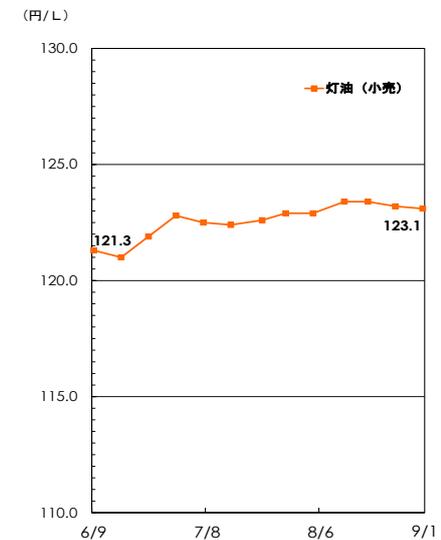
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	8/30	1,647	▲ 98	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/26 ~ 9/1	82.1	▲ 0.8	▲ 1.3
価格		(TOCOM/中部) 9/1	-	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/1	154.2	▼ -0.1	▲ 0.1

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	8/30	2,611	▲ 33	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/26 ~ 9/1	81.4	▲ 0.4	▲ 1.4
価格		(TOCOM/中部) 9/1	82.0	▶ 0.0	▲ 3.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/1	123.1	▼ -0.1	▲ 6.0



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（8月21日～27日）のNYMEX・WTI先物市場は、63.25～64.80ドルの範囲で推移した。

当週8月28日は、米国の本年第2四半期の実質経済成長率が3.3%と、速報値を上方修正、米国経済の底堅さを示したことで、続伸した。ただ、ウクライナのロシア攻撃で停止していた、ロシア産原油をハンガリー等東欧に送油するドルジバ・パイプラインの再開発表もあり、値上がり幅は限られた。10月物終値は前日比0.45ドル高の64.60ドル。

週末29日は、米国の夏のドライブシーズンの終わりと言われる9月1日のレーバーデーの休日を控え、需給緩和感が拡大、また、7日開催予定のOPECプラス会合における10月の産油量の増産合意観測から、反落した。三連休を前にポジション調整の売り買いも見られた。10月物終値は前日比0.59ドル安の64.01ドル。

三連休明け2日は、ウクライナのロシア攻撃に伴う供給減少が続く中、ベッセント米財務長官は、対露経済制裁の強化の可能性を発言、米政府も、イラン産原油をイラク産として販売した企業を制裁対象に追加、不透明感が高まり、また、OPECプラス会合では増産見送り観測が広がり、反落した。

10月物終値は前週末比1.58ドル高の65.59ドル。

3日は、一転、7日のOPECプラスの有志8カ国会合で、増産拡大の方針が合意されるとの観測報道が広がり、また、米国の7月の非農業部門雇用者求人数が、前月比減少、市場予想を下回ったことから、労働市場の減速懸念が強まり、併せて需給緩和が想起され、反落した。10月物終値は1.62ドル安の63.97ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の、8月29日現在の米国在庫週報は、三連休のため、一日遅れの4日の発表。

EIAによると、9月1日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.0セント高の1ガロン3.177ドル（124.3円/ℓ）と3週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比2.6セント値下りの1ガロン3.734ドル（146.1円/ℓ）と6週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、8月29日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の412基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年08月24日～08月30日に休止したトッパー能力は44.7万バレル/日で、前週に対して4.3万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は269.4万klと、前週に比べ5.8万kl増加。前年に対しては18.2万klの増加。トッパー稼働率は77.8%と前週に対して1.7ポイントの増加、前年に対しては5.2ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

8月30日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、灯油、軽油、A重油、C重油ともに積み増しとなった。

ガソリンは168.1万kl、前週差12.9万kl増。前年に対しては26.6万kl多い。

灯油は261.1万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては55.1万kl多い。

軽油は164.7万kl、前週差9.8万kl増。前年に対しては9.8万kl多い。

A重油は77.4万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては8.4万kl多い。

C重油は170.3万kl、前週差2.3万kl増。前年に対しては0.9万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (8/30)	前週 (8/23)	前週比
ガソリン	1,681	1,552	▲ 129 (8%)
ジェット燃料	927	901	▲ 26 (3%)
灯油	2,611	2,578	▲ 33 (1%)
軽油	1,647	1,549	▲ 98 (6%)
A重油	774	757	▲ 17 (2%)
C重油	1,703	1,680	▲ 23 (1%)
合計	9,343	9,017	▲ 326 (3.6%)

5 国内/元売会社製品卸価格

8月26日～9月1日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替の円高がこれをわずかに相殺したが、8月分のサウジ原油価格の調整金加算もあり、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。また、9月4日からの補助金は、「予防的な激変緩和措置」が終了し、定額10円(揮発油・軽油の場合。灯油・重油は5円)と、前週比0.5円減額されたこともあり、補助金込みの実質卸価格は、値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

9月1日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の174.1円、軽油も同0.1円安の154.2円、灯油は18%ベースで同2円安の223.1円(1%ベースでは同0.1円安の123.1円)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油も3週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは15都府県、横ばいは8県、値下がりは24道県だった。全国最安値は愛知県の168.2円、その次は岩手県・宮城県・埼玉県の169.3円であった。他方、最高値は鹿児島県の184.2円。最も値上がりしたのは福島県(前週比0.8円高)、最も値下がりしたのは長崎県(同1.0円安)だった。

次回調査時(9/8)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/1)	前週 (8/25)	前週比	直近高値
レギュラー	174.1	174.2	▼ -0.1	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	123.1	123.2	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	154.2	154.3	▼ -0.1	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第23号) の公表は、9/12 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。